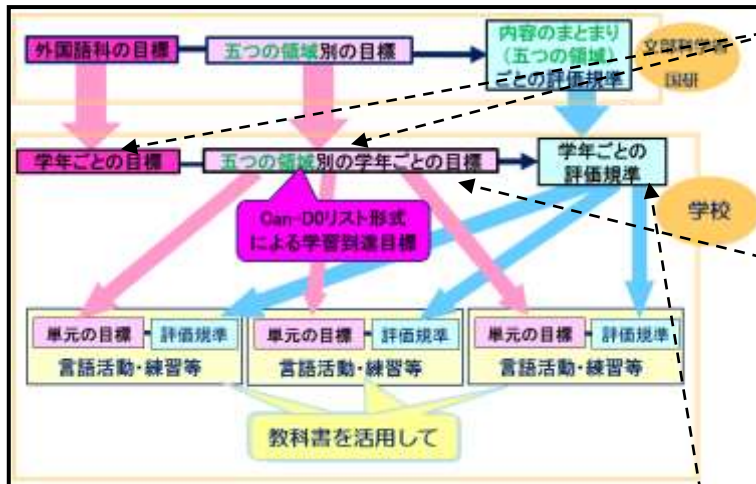


第2章 各教科等における学習評価

10(1) 小学校 外国語

単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは外国語科における学習指導目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえ、指導と評価を行うことが大切である。具体的には、以下のような関連性を考慮することが重要である。



各学校においては、「外国語科の目標」及び「五つの領域別（内容のまとまり）の目標」に基づき、また、児童の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」「五つの領域（内容のまとまり）別の『学年ごとの目標』」を適切に定める。ただし、「外国語科の目標」とほぼ同じになることも想定している。また、「五つの領域別の学年の目標」も同様である。

・五つの領域（内容のまとまり）別

の「学年ごとの目標」は、「五つの領域（内容のまとまり）別の目標」を踏まえると、各々を資質・能力の三観点に分けずに、一文ずつの能力記述文で示すことが基本的な形となる。

・一方で、五つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する「学年ごとの評価規準」は、「五つの領域（内容のまとまり）ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する必要がある。「学年ごとの目標」から「学年ごとの評価規準」を作成する手順は、「五つの領域（内容のまとまり）ごとの評価規準」の場合と基本的に同じである。

※ 外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域のことである。

※ 「学習指導要領 3 指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画の作成上の配慮事項（1）イ」に記されている通り、各学校で「学年ごとの目標」の設定が求められている。

以上の関連性を考慮しながら、単元ごとの目標及び評価規準を設定していく。ここでは、

We Can! 1 Unit 「When is your birthday?」（第5学年） ※ 「聞くこと」「話すこと [やり取り]」

の単元を例として、その評価例を示す。この単元では、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」の二つの領域について指導と評価を行うものとする。

※ 一つの単元で一つの領域に焦点化して記録に残す評価を行うことは可能だが、単元を通して、一領域にかかわる言語活動のみしか行わないのは現実的ではない。

① 単元（題材）の目標を作成する

以下のような手順で、単元（題材）の目標を設定することができる。

まず、「五つの領域別の学年ごとの目標」と「学年ごとの目標」から、本単元とのかかわりを確認する。

関係する内容のまとまり

「聞くこと」

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

「話すこと [やり取り]」

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的表現を

用いて伝え合うことができるようにする。

「書くこと」

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。

このことを踏まえて、本単元の「単元の目標」を以下のように設定することができる。

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※ これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

※ 本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

② 単元（題材）の評価規準を作成する

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

- ・ <知識><技能>の2つに分けて記述する。
- ・ <知識>は、「～理解している」、<技能>は、「～を身に付けている」が基本形となる。
- ・ <知識>は言語材料の明記をし、<技能>は、言語材料の明記に加え、「事柄・話題」「内容」などを明記するのが基本となる。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

- ・ 「知識・技能」とは、目的や場面、状況の設定がある点で異なる。その際には、学習指導要領に記載されている「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえること。
- ・ 文末は、「伝え合っている」「概要を捉えている」等、英語を使って何ができるかを示す。
- ・ 内容のまとまりごとに、「目的等」「事柄・話題」「内容」等の構成要素がある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

- ・ 「思考・判断・表現」の記述の文末を、「～しようとしている」とするのが基本形となる。それは、「思考・判断・表現」と一体的に評価することを原則としているためである。
- ・ 本観点のみを取り出した評価は行わない。さらに、学習活動を通して身に付けた態度を評価するため、単元の導入時に評価したり、1単位時間の授業の冒頭で評価したりすることは適切ではない。

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 月日の言い方や、<u>I like / want ~. Do you like/want ~? What do you like/want? When ~?</u> その答え方について理解している。</p> <p><技能> <u>誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</u></p>	<p><u>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。</u></p>	<p>相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>

Diagram annotations: Arrows point from '言語材料' to the underlined sentence in the '知識・技能' column. An arrow points from '事柄・話題' to the underlined sentence in the '思考・判断・表現' column. A bracket labeled '一体的に評価する' spans the underlined sentences in the '知識・技能' and '思考・判断・表現' columns.

話すこと 「やり取り」	<知識> 月日の言い方や、I like/want ~. Do you like / want ~? What do you like / want? When ~? その 答え方について理解している。	言語材料	目的	自分のことをよく知って もらったり相手のことをよく 知ったりするために、自分 や相手の誕生日や好きなも の、欲しいものなどについ て、簡単な語句や基本的な表 現を用いて、お互いの考えや 気持ちなどを伝え合ってい る。	自分のことをよく知ってもら ったり相手のことをよく知った りするために、自分や相手の誕 生日や好きなもの、欲しいもの などについて、簡単な語句や基 本的な表現を用いて、お互いの 考えや気持ちなどを伝え合おう としている。
	<技能> 知識を使って、誕生日や好きな もの、欲しいものなどについて、I like / want ~. When is your birthday? What do you like / want ~? などを用いて、考えや気 持ちを伝え合うために必要な技能 を身に付けている。	事柄・話題	内容	一体的に評価する	

＊ 「読むこと」の目標のイのみ、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」と、文末が「～するようにする」となっていることに留意する。また、この目標は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれているものを見て、音声化することを指している。その際には、言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を、児童が文字の音（語の中で用いられている場合の文字が示す音の読み方）を手掛かりに、推測して読むようにする。

③ 指導と評価の計画を作成する

観点別学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、単元のまとまり中で適切に評価を実施できるよう、単元の計画を立てる段階から、評価時期や場面方法等を考えおくことが重要であり、そのことを踏まえ以下のとおり指導と評価の計画を作成した。

本事例では、児童の学習状況を記録に残す評価については、「評価」の欄に「聞/や」とともに「[聞くこと] / 「話すこと [やり取り]」の記録に残す評価」として示す。なお、「単元の指導と評価の計画」内の「ST」「LL」「LW&T」「ACT」「STIME」は、それぞれ Small Talk、Let's Listen、Let's Watch and Think、Activity、STORY TIME を表している。

それに加えて、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する必要がある。そこで、本事例では、「評価」の欄に「教師の指導改善のためのポイント例」、[活動]の欄に「児童の学習改善のためのポイント例」を示している。

時	目標◆・活動○【】	評 価		
		知 技	思 判 表	態 度
1	◆月の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：好きな季節や月 【Let's Watch and Think 1】 p.10, 11 【Let's Play 1】ポインティング・ゲーム(月・季節) p.10, 11 【Let's Chant】 Twelve Months (②オプション) p. 13 【Let's Listen 1】 p.12 ・誌面にある行事は何月かを予想し、音声教材を聞いて聞こえた音について、教師とやり取りしながら答えを確かめる。 ○ミッシング・ゲーム ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (A, H, I, M)			★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 本時で初めて月名に出会うことから、本時では、活動を通して月名を繰り返し聞かせるとともに、When is your birthday? と児童に尋ね、児童の日本語での回答を Your birthday is ~. と置き換え、本単元で扱う語句や表現を十分聞かせるようにする。

2 時間目は省略

3	<p>○Small Talk : 誕生日と誕生日プレゼント 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 【Let's Listen 3】 p.13 ・音声聞いて、登場人物のイラストと誕生日を線で結ぶ。誕生日について、指導者の質問に答えたり尋ねたりする。 【児童の学習改善のためのポイント例】 前時の LL2 と併せて聞き取れていない月名が何かを把握し、チャンツ等で注意して聞いたり言ったりするよう促す。 【Let's Watch and Think 3】 p.14 ・登場人物の Haruto と Hana が好きと言っているものを聞き取る。誕生日や好きなものについて、指導者の質問に答えたり尋ねたりする。 【児童の学習改善のためのポイント例】 振り返り前に、教師が“My birthday is ～. When is your birthday?”と数名に尋ねた後、全体にも尋ね、誕生日を言えたかどうかを振り返らせて次時の目標をもたせる。 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (F, N, L, K, E)</p>		<p>★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 LC で自信なげに言っている児童や LL3 において誕生日を聞き取れていない児童がいる場合は、LC を再度設定し、歌詞をその誕生日に替えて行うようにする。 LW&T3 において、好きなものを聞き取れていない児童がいる場合は、次時の LW&T4 を複数回視聴させ、回答を確認する際に、指導者が好きなものについて尋ねたり答えたりするなどの表現を何度も繰り返して言って、聞かせるようにする。また、第4時に向けて、児童に誕生日や好きなもの、欲しいものについて尋ね、その質問の仕方や答え方に慣れさせておく。</p>
4	<p>◆誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。</p> <p>【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 ○Small Talk : 誕生日と誕生日プレゼント 【Let's Watch and Think 4】 p.15 ・デジタル教材を再度、視聴し Hana について分かったことをテキストに書く。誕生日や好きなもの、欲しいものについて教師の質問に答えたり尋ねたりする。</p> <p>○指導者の誕生日についての短い話を聞き、聞き取ったことをワークシートに記入する。誕生日や好きなもの、欲しいものについて質問に答えたり尋ねたりする。 ○メモリー・ゲーム 【Activity 1】 p.14 ・インタビューをする。ペアで誕生日に欲しいものを尋ねたり答えたりして記入する。 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (Z, G, D, B)</p>	聞	<p>★本時では、[話すこと [やり取り]] については、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 LW&T4 を複数回視聴し、指導者が I'm Hana, I like...? I want ...? と視聴内容を確認した後、複数名の児童に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ～? と尋ね、これらの表現を十分に聞かせるようにする。前活動で、欲しいものなどについて聞き取りが十分ではない児童がいる場合は、その児童に尋ね、これらの表現を理解させるようにする。また、次時での活動につなげるためにも、本時の様々な活動後に I like soccer. What sport do you like? I want ～ for my birthday. When is your birthday? What do you want for your birthday? のように、指導者が好きなものや欲しいものを表現してから尋ね、意味のあるやり取りの中で表現の定着を図るようにする。 【「聞くこと」の記録に残す評価】 ◎指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。<行動観察・ワークシート記述分析> ・児童が聞き取る様子やワークシートの記述を分析し、評価の記録を残す。 →p.14</p>

5時間目～6時間目は省略

7	◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。			【教師の指導改善のためのポイント例】 「聞くこと」については「記録を残す評価」を行わないが、「話すこと〔やり取り〕」においても「聞くこと」ができていることが前提となるため、引き続き全児童が「聞くこと」ができるよう丁寧に指導を継続する。
	【Let's Chant】 When is your birthday? p.13		や や	【話すこと〔やり取り〕の記録に残す評価】 ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察> ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。<行動観察> ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。→p.17
	【Activity 2】 p.16 ・パースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。			
	【STORY TIME】② p.17			

※ 単元ごとに、全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はなく、学年末に評価を総括し、指導要領に記載する際に全ての領域・観点についての評価記録が揃っていればよい。

④ 実際の指導及び評価

評価をするには、「評価の場面」、「評価方法」、「事前の手立て」、「事後指導」まで想定しておくことが大切である。その具体を以下に示す。

「4時間目における「聞くこと」(知識・技能) の評価例

第4時 ワークシート例

○先生の話聞いて、たん生日や好きなもの、ほしいものを書きましょう。

たん生日

好きなもの

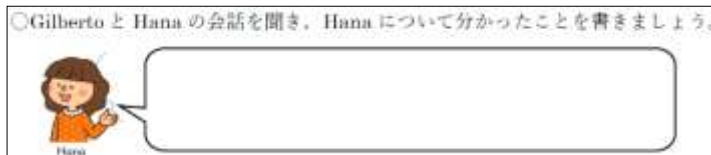
ほしいもの

※ ここに、聞き取れたことを記入していく。「知識・技能」の観点で評価するため、「たん生日」などの情報を正しく聞き取れているかを判断していく。

評価場面	指導者の話を聞く活動
評価方法	行動観察・ワークシート記述分析
事前の手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・第3時までに全体に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ~?と尋ねた後、複数の児童に個別に尋ね、児童の回答に応じて、Your birthday is ~. You want / like ~. と返すことを通して、月名や日付を聞かせこれらの語句や表現の定着を十分にはかかっておく。 ・第4時にALTが来校する計画の場合は、ALTの話聞く活動で「記録に残す評価」を行うことが考えられる。その場合は、指導者は、それまでの全時間を通して、When is your birthday? My birthday is ~. When is your birthday? I want ~ for my birthday. What do you want for your birthday? I like ~. Do you like ~?と答え方を聞かせてから、尋ねるなどして、児童に月名やこれらの表現を意味のあるやり取りの中で十分聞かせたり言わせたりしておくようにする。
評価例	<ul style="list-style-type: none"> ・児童1は、指導者の話を聞いて、ワークシートに「たん生日：9月28日」「好きなもの：チョコレートといちご」「ほしいもの：アイスクリーム」と書いていたので、「おおむね満足できる」状況(b)と判断した。 ・児童2は、指導者の話を聞いて、ワークシートに「たん生日：8月28日」「好きなもの：アイスクリーム」「ほしいもの：チョコレートといちご」と書いていた。月名と欲し

	いものの聞き取りが正確さに欠けていることから、「努力を要する」状況(c)と判断した。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童2について、「努力を要する」と記録に残す評価をしたため、改善点について、振り返りシート等に記入したり、口頭で伝えたりして児童の学習改善につながるようにする。月名や want の意味理解を確かめるために、What do you want? と尋ねたり答えたりする、Small Talk などの活動を行ったり、ACT2 でのやり取りを見取ったりしながら、指導改善・学習改善を継続的に行うようにする。<u>また、次時での LW&T5 で改善が見られたため、その見取りを「知識・技能」に加味し、「おおむね満足できる」状況(b)と判断し、「記録に残す評価」とし、本単元における「聞くこと」における「知識・技能」において評価の総括を「B」とした。</u>

＊ ワークシート例では、正確に聞き取る内容を示している。聞き取る内容を自分で判断して、概要を捉えるようにすると、「思考・判断・表現」の評価材料となる（以下参照）。



「7時間目における「話すこと [やり取り]」（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価例」

評価場面	Activity 2
評価方法	行動観察
事前の手立て	<ul style="list-style-type: none"> 本時まで全体に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ~? と尋ねた後、複数の児童に個別に尋ね、児童の回答に応じて、Your birthday is ~, You want / like ~. と返すことを通して、誕生日や好きなもの、欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現の定着を十分にはかかっておく。 また、上記に示す本時で扱う語句や表現だけでなく、中学年外国語活動で慣れ親しんだり、これまでの単元で学習したりした語句や表現を、指導者は常に意識して使い、自分の気持ちや考えを児童と伝え合うようにする。
評価例	<ul style="list-style-type: none"> 児童1は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしようという目的に向けてコミュニケーションを図ろうとする意欲は見られるので、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では「おおむね満足できる」(b)と判断した。しかし、「思考・判断・表現」の観点では、自ら既習語句や表現を用いて実際に自分のことを伝えたり、相手のことについて尋ねたりしていないことから、「努力を要する」状況(c)と判断した。 児童2は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしているので、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」において「おおむね満足できる」状況(b)と判断した。 児童3は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしている。その上に、カードにない野球のことを尋ね、自分の好きなものをさらに伝えていることから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」において「十分満足できる」状況(a)と判断した。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童1について、「努力を要する」と記録に残す評価をしたため、改善点について、振り返りシート等に記入したり、口頭で伝えたりして児童の学習改善につながるようにする。指導者は、次の単元以降も常に既習語句や表現を用いてまず指導者が自分のことを言うことから、尋ね、児童が既習語句や表現を十分使う機会を与え、それらが定着するよう指導を継続する。また、次時での ACT2 で改善が見られたため、その見取りを加味し、「おおむね満足できる」状況(b)と判断し、「記録に残す評価」とし、本単元における「話すこと [やり取り]」における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」において評価の総括を「B」とした。 「話すこと [やり取り]」の評価については、ペアになる相手によって内容が変わることも考えられるため、学期に1回程度のパフォーマンス評価において全児童を、条件を一定にそろえて見取ることも考えられる。 いずれの児童についても、I like dog. や I want bag. など、複数形の s や不定冠詞の a が抜けていたりするが、これらは「文法事項」と捉え、評価の対象とはしていない。ただし、指導は、児童のこのような誤りをそのままにするのではなく、You like dogs. I like dogs, too. などと正しい形で繰り返し、児童がその違いに気付けるよう指導を行う。

※ 前述の表の児童1と児童3の具体的なやり取りを右に示す。

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は一体的に評価している。

「思考・判断・表現」の観点で評価を行う際には、特定の言語材料（例えば、can など）が使えているかを評価するのではなく、児童がコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、既習語句や表現を使って、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価する。

児童1: Hello!	児童1: Hello!
児童3: When is your birthday?	児童1: December ... 10th.
児童3: Oh, your card. (カードに記されたチョコレート、青い色の靴、バレーボールのイラストを見て)	
Do you like chocolate?	児童1: Yes, I do. Chocolate, good!
児童3: Me, too. I like chocolate.	児童1: Me, too. Me, too.
児童3: Do you like blue?	児童1: Yes. Blue! You?
児童3: I like yellow.	児童1: ああ、Yellow.
児童3: Yes. I like yellow. And I like baseball. Do you like baseball?	児童1: Baseball? No. No, baseball.
児童3: What sport do you like?	児童1: Volleyball.
You like volleyball. Nice.	児童1: Yes, yes. Volleyball, good. You, volleyball?
児童3: Volleyball..., no, I don't. I like baseball. I like Ohtani Shohei.	児童1: Oh, Ohtani. OK.
児童3: Birthday present, what do you want?	児童1: Birthday present, ... bag. Bag.
児童3: Bag? You want bag?	児童1: Yes, bag. Good bag!
児童3: What color?	児童1: Color?
児童3: Red, yellow, blue.... あっ、Blue bag?	児童1: Oh, blue bag.
児童3: OK. Birthday card, here you are.	児童1: OK, thank you.
児童3: You're welcome.	

⑤ 観点ごとに評価を総括する

本単元では、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」の二つの領域について指導と評価を行っている。上記の「④ 実際の指導及び評価」で、それぞれの領域で以下のような評価材料を得たのち、評価の総括を行う。

「聞くこと」における評価の総括

評価観点	知識・技能	(知識・技能)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価場面	第4時	(第5時)	第5時	第5時			
評価方法	行動観察・ワークシート記述分析	行動観察・テキスト記述分析	行動観察・テキスト記述分析	行動観察・テキスト記述分析			
評価規準	指導者の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。	相手の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。	相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。			
児童1	b	-	B	c	C	c	C
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	b	-	B	a	A	a	A

児童2は、第4時ではcの評価であったが、第5時では、(b)の評価を得ている。そして、英語は習得に時間を要することを鑑み、第5時の評価を重んじ、「知識・技能」の評価をBとしている。

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、同じ時間で一体的に評価を行っている。

「話すこと [やり取り]」における評価の総括

評価観点	知識・技能	(知識・技能)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
評価場面	第6時	(第7時)	第7時	第7時			
評価方法	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2			
評価の内容	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。			
児童1	b	-	B	c	C	b	B
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	a	-	A	a	A	a	A

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、同じ時間で一体的に評価を行っている。しかし、「思考・判断・表現」の観点では、十分に力を発揮できなかった児童でも、伝え合おうとしている態度が「おおむね満足できる」状況の場合には、同じ評価としないこともある。ただし、cとaまでの乖離は想定していない。

※ 単元における観点別学習状況の評価の総括は、基本的に各観点の A、B、C の数の比率を踏まえて総括する。ただし、一つの観点において、二つ以上の活動で記録に残す評価を行う場合は、次のように考えることができる。

ある児童の先の活動での評価が「C」、後の活動での評価が「B」であった場合は、その児童が学習に取り組み、おおむね満足できる状況であると判断し、「B」と総括する。一方、先の活動での評価が「B」、後の活動での評価が「C」であった場合は、その児童の学習への取り組みが高まっておらず、おおむね満足できる状況ではないと判断し、「C」と総括する。

ただし、三つの活動で記録に残す評価を行い、「B」「B」「C」という評価の場合、BとCの数の比率から、「B」と総括することになるが、一つ目、二つ目の活動に比べて、三つ目の活動内容に重きをおいている場合は、その児童の学習への取り組みが高まっておらず、おおむね満足できる状況ではないと判断し、「C」と総括することも考えられる。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)